令和3年度 学 校 評 価 書

山形県立鶴岡南高等学校

達成度

Ａ：目標をはるか大きく超えている。　Ｂ：目標を超えている。　Ｃ：目標を概ね超えている。Ｄ：目標を下回っている。　Ｅ：目標達成に遠く及ばない。

<table>
<tr><th>領域</th><th>重　点　目　標</th><th>達成度</th><th>成果（〇）と課題（●）</th><th>学校関係者評価委員の評価・意見・要望</th></tr>
<tr><td rowspan="5">教務課</td><td>ＳＳＨ指定校としての教育課程の円滑な運用に努める。特に、研究開発校として学校設定科目における教材開発や評価方法を支援する。</td><td>C</td><td rowspan="5">△授業時数はコロナ前に戻りつつある。副反応や発熱等で出席停止となる生徒が多く、実質的な学習量の確保を模索している。
●家庭学習が習慣化せずに成績低迷にある生徒がおり、不登校などの二次的な影響がでないよう指導や配慮が必要である。
〇ｅ教務への移行は順調である。細かにカスタマイズしながら運営している。
●中高一貫校の開校に向け、Ｒ５教育課程を含め、課題が山積している。</td><td rowspan="5">C
・コロナ禍や一貫校への移行準備と大変だったと思います。引き続きよろしくお願いいたします。
・中高一貫校については大変期待しております。山積みする課題をクリアして良い開校となる祈念しております。
・鶴南ゼミは高く評価します。
・中高一貫校の準備を急ぐ必要があると思います。</td></tr>
<tr><td>学年や教科、部活動と連携して、生徒にメリハリのある生活を送らせ、家庭学習を充実させる。また、課題の量と質について最適化を図る。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>新学習指導要領への移行に向けた授業改善のための校内授業研究と評価方法の研究を進める。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>今年度から全県で採用される統合型支援システム「ｅ教務」への移行を進める。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>令和４年度以降の新学習指導要領に向けた教育課程の策定と、令和６年度の庄内中高一貫校（仮称）開校に向けた数々の課題に取り組む。</td><td>D</td></tr>
<tr><td rowspan="2">進路課</td><td>(A) 早期の進路希望確立を目的として、１、２学年のうちから大学オープンキャンパスへの参加を積極的に勧める。夢ナビライブに１学年生徒全員が参加することで、進路希望の早期確立を促す。</td><td>C</td><td rowspan="2">（A）〇夢ナビライブは、コロナ禍でオンラインでの実施となったが、生徒の進路希望や研究分野を広げるのに役立った。オープンキャンパス等についても情報を提示し、積極的にオンラインで参加した生徒もいた。
(B) ６月実施予定の企業説明会・起業セミナーは中止となったが、12月に鶴南キャリアプログラムの一環として１年生対象に上木賢太氏より講演していただき、全国的に活躍する本校の先輩の姿に啓発された。
（C）〇共通テストでは、理系で県内２位、文系で県内３</td><td rowspan="2">C
・非常に濃い内容総括で状況がよく分かりました。成果・課題を次年度活かしていただくとともに「よき伝統」を是非新高校に持続させて下さい。
・達成度はB位の評価で</td></tr>
<tr><td>（B）キャリア教育の視点に立ち、職業観の育成や将来専攻する学問分野の決定を目的として、社会人や卒業生を招いての講演会を実施する。</td><td>C</td></tr>
</table>

	（C）超難関大学・医学部医学科１０名以上、難関大学２０名以上、国公立大学１４０名以上の合格達成に向けて取り組む。	C	位、上位は県内１位と健闘した。国公立推薦・総合型選抜では、現在６名(東北大学２名、筑波大学２名、東京学芸大学１名、山形大１名)合格している。医学部医学科と東北大学への進学が難しくなっており、今後の課題である。新高校の指導に向けて、個別最適化の指導が求められる。 (D) ●今年度は、コロナ禍により台湾進路研修が中止となった。 〇ゼミ活動や発表でオンラインを活用するなどして対応することで、ＳＳＨの活動を継続することが出来た。進学指導重点校学力向上推進事業を活用した先進校視察により、先進的な教育活動を知ることが出来、進路指導の一助となった。教員研修はズームで出来た。	もよいのではないか。 ・コロナ禍で活動が制限されている中で様々な企画を考えていると思います。 共通テストの結果はさすがです。毎年化学の偏差値が低いのが気になります。
	（D）SSH 事業、進学指導重点校学力向上推進事業を効果的に進路指導に活用する。	C		
生徒課	日頃からの生徒指導をとおし、“問題行動０、交通事故０、いじめ発生０”を目指す。	C	●大事には至らなかったものの交通事故の件数がまだまだ多く、日常的に注意喚起が必要。 〇生徒会が中心となって円滑に学校行事が進められた。 〇インターハイ等の全国大会には、アーチェリー部、水泳部、卓球部が出場し、全国高文祭には科学部が出場を果たした。	C ・別資料ではいじめの報告がありましたが左記ありませんでしたのでより客観性に立った評価と対応をお願いします。 ・自転車事故が結構あるようなので注意してもらいたい。 ・部活動は多くの市民が期待しています。頑張って下さい。
	生徒会行事において、全校生徒の８割以上が達成感をもてる内容を目指す。	C		
	ロングホームルーム活動計画に「自他の生命の尊重」「心の豊かさ」等の心の育成につながる内容またはボランティア的な企画を、年間１回以上組み込む。	C		
	部活動において全国大会へ団体３種目以上、個人５名以上の出場を目指す。	C		

総務課	「ＰＴＡの日」をはじめとするＰＴＡ独自事業に、より多くの参加が得られるような工夫を行う。また、ＰＴＡ役員とのより良い連携のあり方を研究する。	C	●コロナの影響により「ＰＴＡの日」の開催は行えなかった。 ○ＰＴＡ独自事業としては、南高祭での水分の提供、タオルの制作、研修会を行うことができた。 ●昨年度に引き続き期行えないことが多く、ＰＴＡ活動の検討が必要である。 ●学校評価アンケートを生徒、教員分ネットでの方法にしたが説明不足もあり例年より回収率が下がった。 ○校内倫理委員会を２回開催し、倫理観・規範意識の涵養や資質の向上に努めた。	C ・コロナ禍で計画通りに事業が進みませんでしたが次年度はコロナ前に戻り残り少しの「鶴南ＰＴＡ」の活動が出来ることを願っています。 ・コロナ禍でＰＴＡ活動の制限は仕方無いと思います。
	防災マニュアルの定着をはかり、より実効性のある危機管理体制の構築を目指す。緊急時における職員間及び生徒・保護者との連絡体制については、業者委託を継続し、未登録者の減少に努める。年２回の防災訓練により生徒教職員の危機管理意識の向上を図る。	C		
	学校評価のあり方（実施時期、分析方法、活用方法など）を検討し、８割以上の回収率を目指すとともに、校内反省会とのより効果的な連携のあり方を研究する。	D		
	年２回の校内倫理委員会を通じて教職員の倫理観・規範意識の涵養をはかる。	C		
保健課	新型コロナウイルス感染拡大予防に関する啓発と態勢づくりを徹底する。その他の感染症やアレルギーに対しても適切な対応に努める。	B	○毎朝の健康観察や大会前の体温測定・チェックリスト記入、マスク着用・手洗い・消毒など、基本的な感染症対策を徹底して感染予防に努めた。 ●保健室利用が例年に比べ激増し、12 月までに昨年度の２倍近くにのぼっている。特に 10 回以上利用の頻回来室者の増加が目立つ。 ●健康診断の結果治療勧告を受けた生徒の受診率は、昨年度よりはアップしたものの、視力で３割程度と、まだまだ低い。 ○学年との連携のもと、Case 会議を随時開催して、心身に問題を抱える生徒の早期支援対策を進め、共有フォルダを通じて全職員に情報共有を行った。 ●感染戦傷対策の一環で個人ゴミの持ち帰りを指導しているが、徹底しきれていない。 ○清掃点検、手指消毒用アルコールの補充確認など、保健医院が定期的に活動を行い環境整備につなげることができた。	C ・保健室利用の増加は気になるところと感じました。引き続きのフォローをお願いします。 ・いつも校内は綺麗だと思っているのですが生徒や保護者アンケートをみるとそうではないようですね。
	自己管理能力の育成を図り、健康管理の充実に努める。学年担任会との連携を強化して、保健室利用ルールを周知徹底する、	C		
	健康診断結果の家庭への連絡と治療勧告を徹底し、疾病の予防及び早期発見・早期治療に努める。学校行事前の健康相談を実施し、円滑な行事運営の一助とする。	C		
	学年との連携によりCase 会議を適宜開催し、生徒のメンタルケアに努める。スクールカウンセラーをはじめとする各種相談活動を充実させ、支援を必要とする生徒に適切に対応できるよう、精神保健・特別支援教育に関する研究を進める。	B		
	校舎内外の清掃指導を徹底し、学校環境の美化と整備に努める。危険防止のための施設・設備の安全点検を徹底する。	C		
	生徒保健委員の主体的な活動を活発化し、生徒への啓蒙活動の積極化を図る。学校保健委員会を通して学校保健上の課題の検討と解決を図る。	B		
図書情報課	①　SSH・鶴南ゼミにおける図書・視聴覚教材・教具の効果的な活用を研究し、環境を整備する。	C	①　●図書の貸出冊数は、昨年比 727 冊減少（一人当たり 4.1 冊）した。 ②　○ゼミ活動に関わって、生徒からの要望にできる限り対応した。 ③　○YBC 読書感想文コンクールにおいて、高校生の部で本校生徒が　最優秀賞を受賞した。 ④　○特に問題なく管理・運営できた。 ⑤　○SSH の多彩な活動と活躍を発信できた。 ⑥　○校内および校外とかかわる諸行事で有効に活用できた。	C ・図書の廃棄基準が何か分かりませんが可能であればどこか寄付するのはいかがでしょうか。 ・ホームページはよく更新しています。 ・コロナでも貸し出し冊数が減るのですね。読書は人間形成を考える上で大事だと思います。
	②　図書館の利用促進及び読書指導の研究を行い、本校の特性にあった運営を図る。	C		
	③　読書、図書館利用の習慣化を図るため、「ＬＨＲ読書の時間」や「コンテストへの応募」などを実施する。	C		
	④　鶴岡南高校の情報セキュリティーポリシーの周知と啓蒙を行う。	C		
	⑤　学校ホームページの更新をより活発にし、ＳＳＨなどの活動を積極的に発信する。	C		
	⑥　各 HR に設置のプロジェクターの利用を促すとともに利用法を研究する。	C		

SSH事務局	ＳＳＨⅢ期目採択となるよう関係機関とやりとりをしながら、申請書を作りあげていく。	C	○事務局内、運営企画委員会で情報共有、役割分担をし、外部の方々とのやりとりを有効に活かしながら申請書の完成に至った。 ○校内の発表会ではこのような中でも他校の生徒と交流できた。様々な外部発表会への参加、受賞に結びついた発表もあり、活動の充実が見られた。 ○G-workspace の利用、オンラインでの台湾との交流会、ＩＣＴ関連の設備や機会を昨年度以上に充実させることができた。 ●ゼミ探究のルーブリックを作成し、発表会以外での評価の充実をはかることができた。また、ゼミ基礎も新しい３観点で評価項目を決めてもらうことで、次年度からの評価の準備が少し進められた。 ●事業の評価については計画の段階でここまでに達していたら良いというものを準備しておく必要があった。Ⅱ期目全体を振り返り、何をもってそれができたと言えるか、の根拠に苦労することになった。	C ・充実した活動が行れているとともにその分先生方からは大変な対応をいただいているのだと思います。
	毎週一度のＳＳＨ事務局会、月一度のＳＳＨ運営企画委員会を開催するとともに、各学年、各課との情報共有を図りながら全職員体制で事業を進めていく。	C		
	鶴南ゼミでは鶴南ゼミマニュアルの活用、合同ゼミの実施およびＳＳＨだより等による指導で更なる内容の充実を図る。また、発表会等を通じた他校との交流も拡大を目指す。	C		
	鶴南ゼミの評価について、研修会等を通じた教職員の共通認識のもと、本校の現状に適したものにしていく。また、各ＳＳＨ事業についての評価の仕方を整備する。	C		
事務部	校内における事故防止のため、保健課との連携を図る。年８回以上の合同安全点検を実施する。	C	○安全点検を毎月実施し、問題箇所については基本的に速やかに対応して、安全確保に努めた。	C ・引き続き安心安全な学校の維持をお願いします。 ・安全点検は毎月一回は必要だと思います。
１学年	SSH の趣旨に沿い、「鶴南ゼミ基礎」への興味関心を高めるとともに、「探究的な学び」へ意欲的に取組む態度を育成する。	C	○「鶴南ゼミ基礎」を通じて、調査方法や効果的な発表法等についての基礎的な知識を獲得できた。 ○1 学期、2 学期とも出席率９９.８％を超え、健康的な生活を送ってくれている。学習活動を含め、良好な高校生活を送っている。 ○単位未修得者は 1 学期０、2 学期 2 名と大変少ない状況にある。長欠者０。いじめ報告は 2 件あったが、早期に対応でき、収束できた。 ●コロナ禍にあり、保護者に対して十分な PTA 活動を提供できなかった。 ○４月当初の部活動加入率は、９５．５％と例年に比較	C ・次年度の成果の継続と改題の改善をお願いします。 ・健康的な生活を送っているようで素晴らしいです
	出席率９９％以上を目指す。	A		
	単位未修得、長期欠席、いじめ等の問題行動「０」を目指す。	B		
	学年ＰＴＡの出席率７５％以上を目指す。	C		
	部活動加入率９０％以上を目指す。	C		

	学習の質（学習方法の確立）と量（授業以外の学習時間３時間）の向上を目指す。	C	し低かったが、各部で好成績を残した。 ●進研模試の３教科全国偏差値は、７月は６０．３、１１月は６０．０と平年並みであったが、数学に強みがあるようだ。今後の伸長に期待したい。	
	模擬試験における全体平均偏差値６０以上を目指す。	B		
２学年	心身の健康（特に心の健康）に留意させ、年間出席率９９％以上を目指す。	D	●部活動、学校行事等、多忙な日常生活の中で学習不振・人間関係等の理由により、心身の健康が保てない特定の生徒がいる。普段の学習の積み重ね（予復習・課題提出など）が不十分な生徒がいる。 ○探究活動は、頑張りを見せ、発表できていた。将来の進路選択に繋げさせたい。 ●２年生は３教科を完成させる時期であるが、例年と比べ停滞している。得意な科目がなく、英語・数学・国語の力はまだまだ不十分である。 ○学年 PTA では、進路研修、新入試制度関係等を扱ったため、多くの保護者より参加して頂いた。 （1 回：中止、2 回：70.2、3 回：63.9、4 回：56.0） クラス PTA は学年 PTA 後に実施しているが、懇親会はコロナ禍のため、以前、実施できないでいる。学校での様子の伝え方は課題である。	C ・総括からは課題が多く見受けられた印象がありましたが個性あふれる学年なのかなと感じました。残り一年の高校生活が生徒達にとってより充実したものになるよう願っています。 ･3 学年での伸びを期待します。
	全員が全ての単位を修得して進級することを目指す。	D		
	具体的な進路目標の設定（将来の社会に貢献できる職業・学部学科・大学・専門分野の研究）と志望理由を明確にさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	C		
	進路志望の実現に向けて、日常の授業・鶴南ゼミ・進路研修等を通じて、探究力（課題設定⇒思考⇒判断⇒表現力）の向上の為に主体的な学習（特に学習の質：方法・徹底度）の向上を目指す。	C		
	模擬試験における各教科の平均偏差値６０以上を目指す。	D		
	学年ＰＴＡ出席率７０％以上、クラスＰＴＡの出席率５０％以上を目指す。	C		
３学年	SSH で培った個々の能力を、進路実現に積極的かつ有効に活用する。	B	○SSH 等での活動を活かして学校推薦型・総合型選抜に 50 人以上が挑戦するなど、例年以上に積極的な出願が多かった。東北大 AOⅡなど国公立大の合格率は 3 割弱だったものの、難関も含めた私立大の合格率は非常に高く、全体としては 5 割程度の合格率であり善戦した。 ○●大多数の生徒は自分の志望達成に向けて頑張ってきた。一方で、希望する進路と成績面での差がある為、心身の健康が保てない生徒もいた。出席率は 98.8％であった。 ○学校行事や部活動において最上級学年としてリーダーシップを発揮し、鶴南の伝統を後輩たちに引き継いだ。コロナの制約が多い厳しい状況の中で学習や学校行事にしっかりと取り組み、充実した高校生活を送ることができた。 ●模擬試験における各教科の平均偏差値 60 以上は、目指したものの達成には至らなかった。 ○学年 PTA では、多くの保護者より参加して頂いた。 平均の出席率は約 75％であった。	C ・3 年間ありがとうございました。感謝しかありません。 ・前期後期の結果に期待しています。
	全員が評定平均値を上げられるよう、毎日の授業に懸命に取り組む。	C		
	質を重視した主体的な学習を促し、第一志望合格７５％以上を目指す。	C		
	模擬試験における各教科・科目の平均点偏差値 60 以上を目指す。	D		
	学習と共に、学校行事、部活動に全力で取り組み、リーダーとしての質を高めさせる。	C		
	心身の健康に留意し、出席率９９％以上を目指す。	C		
	学年 PTA の出席率７５％以上を目指す。	C		